

設立趣旨

茨城県阿見町は大正時代に、霞ヶ浦海軍航空隊が開隊されて以来、昭和14年には飛行予科練習部いわゆる「予科練」が、神奈川県横須賀からここ阿見町に移転し、終戦まで全国の予科練教育・訓練の中心的な役割を担うこととなりました。

このように、海軍の町としての歴史を歩んできた阿見町は、わが国の近現代史の中でも特別な時代を過ごし、日本が経験してきた戦争と平和を考えるうえで、忘れることのできない多くの事柄をその風土と歴史の中に刻み込んでいます。

このような歴史的背景の中で、貴重な予科練の歴史や阿見町の戦史の記録を保存・展示するとともに、次の世代に正確に伝承し、命の尊さや平和の大切さを考えていただくために「予科練平和記念館」を建設しました。



「海軍飛行予科練習生」及びその制度の略称で、第一次世界大戦以降、航空機の需要が世界的に高まり、欧米列強に遅れまいとした旧海軍が、より若いうちから基礎訓練を行って熟練の搭乗員を多く育てようと、昭和5年に教育を開始しました。14才半から17才までの少年を全国から試験で選抜し、搭乗員としての基礎訓練をするもので、飛行予科練習生制度が始まってから、終戦までの15年間で約24万人が入隊し、うち約2万4千人が飛行練習生課程を経て戦地へ赴きました。なかには特別攻撃隊として出撃したのも多く、戦死者は8割の約1万9千人にのぼりました。

「予科練」とは

隣接施設のご案内



ゆうしょうえん
雄翔園

雄翔園は、予科練の戦没者約1万9千人の霊魂簿をおさめた「予科練の碑（予科練二人像）」を正面に配した庭園です。



ゆうしょうかん
雄翔館

雄翔館は、予科練戦没者の遺書・遺品約1700点を収蔵、展示しています。予科練出身者、遺族などで構成される公益財団法人海原会が管理しており、1968（昭和43）年に開館しました。

利用案内

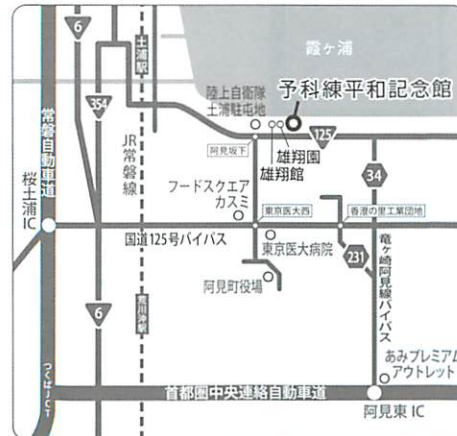
- 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）、年末年始
- 入館料：大人500円（団体400円）小中高生300円（団体240円）
- 交通

自家用車を利用

- ・常磐自動車道 桜土浦ICから国道125号バイパスを利用約15分
- ・首都圏中央連絡自動車道（圏央道）阿見東ICから約15分

JR常磐線を利用（土浦駅西口からバス）

- ・JRバス「江戸崎方面」行き「阿見坂下」停留所下車 徒歩3分
- ・関東鉄道バス「阿見中央公民館」行き「阿見坂下」停留所下車 徒歩3分



予科練平和記念館 YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM

〒300-0302 茨城県稲敷郡阿見町大字廻戸5番地1
tel 029-891-3344 fax 029-888-2470
e-mail yokaren-ofc@town.ami.lg.jp
URL <http://www.yokaren-heiwa.jp/>

Teenage boys in the Showa period
who volunteered for Yokaren

To increase awareness of the importance of life
and world peace through their lives

予科練に志願した
昭和の少年たち
今と変わらぬ少年たちの青春群像を通して
命の尊さと平和への認識を深める



予科練平和記念館
YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM

施設の特徴



土門拳がとらえた予科練

予科練平和記念館では、昭和を代表する写真家、土門拳が土浦海軍航空隊に泊まりこんで撮影した写真42枚を収蔵、展示しています。戦後、一連の写真のほとんどは焼却されてしまいましたが、当館で展示しているものは、持ち主の予科練習生が入院中だったために処分をまぬがれて奇跡的に残ったものです。予科練の証言者ともいえるべき貴重な写真をご覧ください。



空を感じる空間

予科練平和記念館では、「空」を見せることを大切にしています。変わらぬ空の風景から、当時の少年たちの気持ちや現在の平和な世界のことを考えてみてください。



館内案内

予科練平和記念館では、予科練の制服である「七つボタン」をモチーフに7つの空間から構成された常設展示室と、企画展示や講演会、研修会等、様々な交流活動を展開する「20世紀ホール」、休憩や図書の閲覧の他、館の収蔵資料などを閲覧することのできる「情報ラウンジ」などがあります。展示を含めた様々な事業を展開し、地域振興を図るための拠点として運営されます。



七つボタンと7つのテーマ

予科練志望者のあこがれであった「七つボタン」は、世界の七大洋を表したもので、海を越えて大空を駆け巡る大いなる期待が込められています。予科練の代名詞とされ、空を目指した当時の少年たちのあこがれであった「七つボタン」にちなんで、入隊から特攻にいたる7つのテーマによるストーリーを設定し、施設全体を構成しました。

展示の概要

1 入隊

「募集」と「志願」という二つの側面によって、応募から入隊までの少年たちの揺れ動く心情を明らかにし、予科練を目指した時代的な背景や制度の変遷を解説・展示します。



2 訓練

予科練での厳しい生活や訓練風景、教育の様子などを当時の取材に基づくイラストや写真、実物などで紹介し、航空兵を目指して時代を駆け抜けた予科練習生の実像に迫る展示です。



3 心情

手紙や日記、手記などをもとに、希望と不安の中で日常を過ごしつつ、訓練に明け暮れた少年たちの「想い」に触れることで時代を経てもなおお色あせぬその「心情」に迫る展示です。



4 飛翔

予科練を卒業後、飛練や実用機教程などを経て、戦地へと飛び立っていった出身者が各戦線で活躍した事、一方で思いを遂げられず訪れた様々な悲劇などを伝えます。



5 交流

戦時下の苦しい状況の中でもたくましく生き、予科練生の厳しい猛訓練を影から支えた阿見の人々。その交流の軌跡を戦時下の暮らしを物語る情報や資料と対比させながら紹介します。



6 窮迫 空襲映像 07分～、22分～、37分～、52分～

戦局の悪化によって国土が狙われ、空襲という形で現実化した恐怖を、臨場感あふれるシアター映像と空襲にちなんだ資料や証言によって感じとれる展示空間です。



7 特攻 特攻映像 07分～、22分～、37分～、52分～

多くの予科練習生が犠牲となった「特攻」作戦。予科練出身の戦死者を暗示する光に囲まれた展示室で、予科練と「特攻」作戦のかわりについて紹介します。

